

令和6年10月10日

件名 高崎市歴史民俗資料館企画展のお知らせ
高崎てぬぐい繁盛記3「絹でつながる商都高崎」

1 開催期間

- ・令和6年10月12日（土）～令和7年2月24日（月）
開館時間 午前9時～午後4時
- ・休館日 月曜日、年末年始（12月28日～1月4日）
月曜日が祝日の場合は開館し、翌日が休館（10月15日・11月5日・
令和7年1月14日、2月25日）
祝日の翌日（令和7年2月12日）
- ・入館料 無料

2 会 場

高崎市歴史民俗資料館 企画展示室
（高崎市上滝町1058番地 電話・ファクス 027-352-1261）

3 展示資料

当館所蔵のてぬぐい資料、約100点

4 内 容

てぬぐいは日用品である一方、商店や企業の挨拶・宣伝等にも活用されてきたことから商工業の隆盛や会社の移り変わりを伝える貴重な歴史資料でもあります。

当館では、平成25年度・高崎てぬぐい繁盛記、平成28年度・高崎てぬぐい繁盛記2「染め抜かれた高崎」を開催しており、3回目となる今回は、＜高崎駅開業140周年＞と＜世界文化遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」登録10年＞を記念し、商都高崎の発展に大きく寄与した絹産業と鉄道、銀行に関連したてぬぐいを展示します。

【本件に関する問い合わせ】

教育部文化財保護課歴史民俗資料館
電話：027-352-1261

絹でつながる 商都高崎



令和6年度第2回企画展「高崎でぬぐい繁盛期3」は、絹でつながる商都高崎は、平成25年度と平成26年度に開催した企画展「高崎でぬぐい繁盛期」に続いて3回目となるてぬぐいの展覧会です。今回は高崎駅開業140周年と世界文化遺産「宮田製糸場と絹産業遺産群」登録10年を記念して、高崎を繁栄に導いた絹産業と鉄道、さらに製糸業の発展に貢献した銀行のてぬぐいを中心に展示します。てぬぐいは、すでに染を消してしまつた高崎市内の商店や企業などによって配られたものもあり、貴重な歴史資料といえることから、高崎の特徴を知る手掛かりとなります。また、高崎には現在も県内唯一、明治時代に考案された「注染」というてぬぐい染めの技法が守られており、高崎の「いこ」を表わすてぬぐいが日々誕生しています。

入館無料

令和6年

令和7年

10/12(土)・2/24(月)

開館時間：午前9時～午後4時
休館日：月曜日（ただし、月曜日が祝日の場合は開館し、その翌日（10月15日・11月5日・令和7年1月14日・2月25日）
祝日の翌日（令和7年2月12日）、年末年始（12月26日～令和7年1月4日）



高崎市歴史民俗資料館

- ① JR高崎駅西口(群馬中央バス) 県立女子大行き約30分「湯沢寺裏」下車徒歩3分
- ② JR高崎駅東口(群馬バス) 日豪病院行き約20分「下瀬西」下車徒歩8分
- ③ JR高崎駅東口(ぐるりん) 群馬の森線「池川郵便局入口」下車徒歩15分
- ④ 関越自動車道(高崎 IC)5分
- ⑤ 関越自動車道(高崎玉村スマート IC)3分
- ⑥ 北関東自動車道(前橋南 IC)5分

駐車場：大型車3台／普通車20台

高崎市歴史民俗資料館 〒370-0027
群馬県高崎市上滝町1058 Tel・Fax: 027(352)1261
E-mail: rekimin@city.takasaki.gunma.jp





わたしや富岡の玉きぬ生絹
すまはいつくで染るやら
並海

並海(直次郎)

き いと
生糸の産地群馬と
輸出港横浜を結ぶ
絹



輸送力の増強
鉄道開通



生糸貿易と産地の
機械化に資金供給 銀行

